

## 描画を利用した一例

木村欣一郎 (大分)

### 要旨

キーワード :

### 1. はじめに

この症例は 1994 年から 96 年にかけて経験したもので、症例報告しようと思っていたのが、筆者の病気等でついつい延びてしまったものである。

「早期回想を題材にしたグループ絵画療法の実際」<sup>(1)</sup>が中島らによって報告されている。中島らの報告は、アドラー心理学絵画療法を中島が留学したとき体得したものを日本に帰って実践したものをまとめたものである。筆者の報告する症例は一人の患者の経過報告の場面を描画にしてもらったもので、内容は全く異なる。筆者の思いつきで、早期回想や患者の状態像を描画してもらおうと、分かりやすい場合もあるのではないかと思ひ描いてもらったものである。だから、別に無理してわざわざ描画にしなくてもよい例である。しかし、以下報告する中で指摘するが、描画にすると理解しやすいし、カウンセリングを行なううえで、役立ったので報告するにすぎない。筆者は絵画療法をおこなったのではない。ただ、描画を利用したにすぎない。

なお、本人のプライバシー保護のため、若干、脚色したことをおことわりしておく。

描画は画用紙にクレヨン鉛筆で描いてもらった。カラーで描いてあるが、写真をとる時、モノクロで撮った。(カラーそのままで見えていただくといっそう理解しやすいと考えられるが)

### 2. 症例紹介

患者

女性 33 歳、主婦、職業 なし

併病

アレルギー性鼻炎 (数年前)。カンジダ症 (数ヵ月前)

既往歴

特記すべきものなし

生活歴

高卒後、ある会社の事務系の仕事をしていて、現夫と知り合い恋愛結婚して、というより、別に好きな人がいたが、現夫に強くおしきられ、関係を結んでしまい、好きな人としかたなく別れ、

現夫と結婚した。結婚して8年目、6歳の男子、2歳の女子、2人の子どもがいる。家族4人暮らし。夫は教員で2歳上。本人の家族は実父、母、1歳下の妹の4人で、妹も結婚して子どももできて幸福に暮らしている。2歳下の弟がいたが、小学1年頃、わけのわからない病気で死亡したという。

#### 現病歴

約半年前より、肩こり、めまい、息苦しい、身体がだるい等の症状出現、1ヵ月前より、急に泣いたり、怒って夫に対して物を投げるなど状態悪化。当院にX年7月受診。

#### 初診時所見

夫に連れられて、来院。本人「結婚する前は、夫は『僕は君にひと目ぼれした。他の人と結婚するよりもっと幸せにする。苦労はかけないからお願いします』とプロポーズされたが、結婚したら態度が豹変し、ワンマン亭主になり、給料もいくらもらっているかわからない。夜も連絡なく酒を飲んでかえり、しばしば無理なセックスを要求する。育児もほったらかし。8年間がまんしてきたが、ためていたのが一挙に爆発した」という。

夫「数ヵ月前より、病気の状態なので何を言っても仕方ない。帰宅時間は遅くなるのは月に2～3回で、仕事等の飲み会ぐらい。香典や会費などの必要経費の管理もできないので、もう少し気をきかせてくれたら、給料の管理をまかせてもよいが、これまでの経過から無理である。ここ数ヵ月間、カンジダ症のためセックスなしで、男としては少し不満である。

しかし、いろいろあるがいつも元気よくあかるくやさしくあったらよいと思う」

#### 患者本人の症状の訴え

- \*突然涙が流れたり、気分が激しく動揺して暗い気持ちに襲われたり、えもいわれぬ不安や自信のなさに襲われる。自己嫌悪に落ちいる。
- \*はやく目がさめる。5時くらいにさめて、十分な睡眠がとれない。
- \*とにかく身体がだるかったり、疲れやすい。
- \*子どもの世話や炊事、家事が非常に重荷になっている。これらのことから逃れたい。もう限界に達している。静かに休息したい。
- \*子どものちょっとした行動でも気分を変えてしまう。イライラ、不安感。
- \*頭の中がもやもやしてパニック状態になる。(一日2回位)
- \*息苦しい。心臓がドキドキする。頭痛、めまい。このまま呼吸出来なくなってしまうのではないかと思う。
- \*何事に対してもやる気がでない。
- \*物事をよく忘れるようになった。
- \*長い間、同じ状態でいることに耐えられない。

#### 本人の夫に対する要望

- \*自分のことを認めてもらいたい。
- \*隠しごとはしないで何でも話してほしい。
- \*何事も一人で決めないで、二人で話しあって決めたい。
- \*話しを聞く時は真剣に聞いてほしい。
- \*私が夫を必要にしている時はなにがあっても優先して頼りになってもらいたい。
- \*お金の心配はさせないでほしい。

\*私の知らないところで借金をつくらないでほしい。最近でも、何のためかよくわからないが、カードローンで、百万円かりていたことがばれた。何も説明がないので、頭の中にいつも不安がある。

#### 夫の要望

\*夫を信頼してまかせてほしい。(帰宅時間や借金のこと。飲み会のこと等)

\*必要経費など、こちらからいわなくても「いくらかかったの?」とか気をきかせてほしい。(会費、香典など)

\*いろいろありますが、いつも明るく元気よくやさしくあったらよいと思う。

#### 治療者の判断

患者の症状の相手役が夫であることが明白である。夫婦カウンセリングが必要と判断された。

以上のもと次回から夫婦カウンセリングを行うことで一致した。

### 3. その後の経過

第2回来院時、患者一人で来院する。「夫の父が急に倒れて救急入院したので今日は夫は来ません」と言う。しかし、これ以後夫は一度も来院せず。

その後、抗うつ剤、安定剤、睡眠導入剤投与していたが、症状改善せず、3ヵ月後、10月中旬、いわゆる躁うつ状態で、当院入院加療とした。

夫は協力的でなく、どうやら3日前、夫と大喧嘩してこれがきっかけで病状が激変した。多弁、多動、不眠、ここ数日食事をあまりとっていないので、点滴等をおこなう。本人は「近くに親から買ってもらった土地があり、この土地の草刈りに行こうと言うと、夫は返事せず、『自分にはやりたいことがあるので、草刈りにはいけない』と言う。なんの用事か聞いても言わない。それでかっとなって喧嘩になった。あとは、なにも食べられず、嘔吐がひどく、水も飲めず、頭の中がくらくらして、割れるように痛み、なにも考えることができません」と述べる。夫はついてこないで、一人でタクシーで来る。

あとで、夫に電話すると、「自分の好きなようにしないと気がすまないで弱っている。なんとかしてください。私の手におえません」と言う。

治療者：「夫さん、あなたの協力なしに、病気はよくなりませんよ。なんとか時間をみつけて、こちらに来て下さい」

夫：「出来るだけそうします」

しかし、そのまま、来院しない。一度来たらしいが、治療者とは面談しないで帰る。

10日間、輸液療法、内服薬変更してかなり状態安定する。

気分が少し安定してきたので、画用紙とクレヨン鉛筆をわたして「今のあなたの家族の状態やご自分の考えることなどを描いてくれませんか?」と頼む。

#### 図1の説明

現在の家族。ヒモがつながっているのが子どもと私と3人で、夫はつながっていない。私中心で子どもをみている。



(図1)

#### 図2の説明

新婚の時、夫が中心で、私だけがカゴの鳥。



(図2)

#### 図3の説明

18歳から22歳の頃、たくさんの男の人からつきあってください、と言われていた。私もお姫様みたいに男の人にもてた。男の人からも多くかわいがられて楽しさに満ちあふれていた。今の主人とつきあうまではそうだった。結婚したい人もいておつきあいしていたが、今の主人に言いよられて関係を結ばれ、仕方なく、それまでつきあっていた人と別れて、結婚した。いまの正直な気持ちは主人にだまされた感じ、こんなことだったら以前つきあっていた人と結婚しておればよかった。(涙ぐむ)



(図3)

11月初旬、主人が来て、食事に外出した。しかし、ささいなことで、主人がウェイターとトラブルをおこし、すぐに帰った。涙が出て、寒気がした。また症状悪化。食事とれず、感情易変著しい。輸液療法再開。しばしばナース室を訪れ、あれこれと不安を訴えてはよく泣く状態であった。

11月下旬、かなり病状安定してくる。12月初旬まで、主として早期回想の図を描いてもらう。

## 4. 早期回想の描画図

#### 図6の説明

小学校低学年頃、父母が毎晩喧嘩していた。父はものを投げる。母は泣く。私は近所のおばあちゃん、おじいちゃんのところへ行って泊めてもらった。2階の部屋は1つしかない。どうしてこんな喧嘩ばかりするのか腹立たしかった。私がおとなになったら喧嘩するような家庭はつくりたくないと思った。

治療者（以下、治：と略）：「この内容は現在のあなたの状況と関係ありますか？」

本人（以下、本：と略）：「いま私も同じ状況です。なんとか主人に協力してほしいと思っているのに、主人は家庭を大切にしてくれません。子どもがかわいそうです」（涙ぐむ）

#### 治療者の解釈

治：『私は夫婦が喧嘩しない、仲のよい家庭をつくりたい』と思っておられるのですか？」

本：「そうですね」

#### 図7の説明

妹に対するコンプレックスの図です。4歳の頃。妹の方が背が高い。一歳下ですが、勉強もスポーツもできた。私より積極的で何でもできる。私はみんなからかわいいねと言われるぐらいです。この図は妹と一緒に仲良く遊んでいる図です。スベリ台で一緒に遊んで楽しかった。しかし、中、高校生の時からは喧嘩ばかりして、今も仲がよくないです。あの頃の時がなつかしいです。

治：「現在もあなたは妹さんにコンプレックスをいだいているということですか」

本：「そうです。妹は夫婦仲もよく、私達の状態を軽蔑しています。相談にも最近はのってくれません」（付記 この妹も、実の父母も一度も治療者に連絡もないし、面会にも来なかった）

#### 図8の説明

小学1～2年の頃、田んぼで、ダンボールでお家をつくって、妹と2人で遊んだ。1つ下だったので、よく同じ服を作ってもらった。とても楽しかった。友達みたいな感じで育った。いまでもそんな感じです。母は全く相談相手になりません。妹の方がまだましです。

治：「さきほどは妹さんはあなたのことを今回は軽蔑していると言われましたが、今回のことでも相談相手になってくれないのですか？」

本：「話しましたが、夫婦の問題は自分達で解決するものよと言い、とりあってくれません。



(図6)



(図7)



(図8)

母も同じで、全く私の状態をわかってくれません。『甘えているのだ』と放置されています」

#### 図9の説明

小学1～2年の頃、父と母と妹4人でドライブした。けっこう、あっちこちに連れて行ってかれて楽しかった。

治：「これは、このような楽しい家庭を築きたいということですか？」

本：「そう思っています。でも、主人が理解がないので、今はあきらめています」

#### 図10の説明

みんなが食事している時、自分だけ二階にいてテレビをみている。

治：「なぜ？」

本：「食事を見ているとむかついてくるから」（図で姉ちゃんと描かれているのは妹の誤り）

治：「嫌いな食事だったの？」

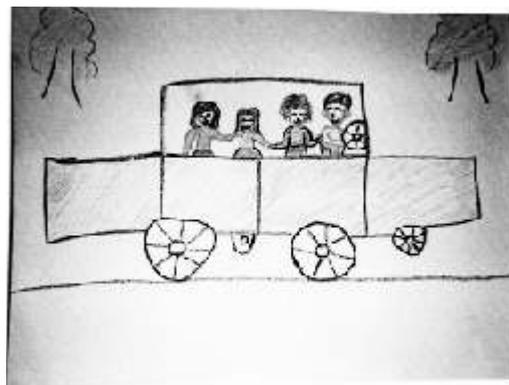
本：「多分そうだと思うが、よく覚えていません」

治：「しばしば、私は家族のなかで仲間に入らず、ひとりぼっちだったことがある？」

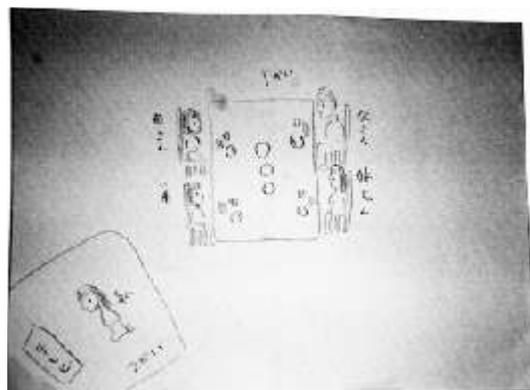
本：「そんな感じはあったと思う」

治：「今回の出来事と関係ありますか？」

本：「私の身内のものは誰も私の味方をしてくれません」



(図9)



(図10)



(図11)

#### 図11の説明

小学3年の時、回転塔で遊んでいて、男子と遊んでいた。自分の身体が直線になって、手を離れた時から気絶していた。気がついたら前歯が折れていた。桜の木にあたったのも覚えていなかった。

治：「どんな感じ？」

本：「気がついたら、顔中けがして泣きながら、保健室へ行った。怖くてそれからは二度と乗らなかった」

治：「今回の出来事と何か関係ありますか？」

本：「そうですね。よくはわからないけど、彼との結婚は失敗だったかもしれない。まさかこんな状況になるなんて思いもよらなかったことです」

治：「人生には、思いもよらない不幸な出来事がおこることがあるというようなことを考えていますか？」

本：「今回の出来事を通じて、そんな気がします」

#### 図 12 の説明

小学低学年頃、カンけりしたり、かくれんぼしたりして楽しかった。この絵のかくれんぼの男の子は幼児の頃の弟だったかもしれない。母は手づくりのセーターをよく着せてくれた。



(図 12)

治：「最近は楽しいことはありませんね？」

本：「そうですね。子ども時代がなつかしい」

治：「でもこんな遊び相手がいればよいなあと考えませんか？」

本：「それは強く思います」

治：「相談できるお友達とかいないのですか？」

本：「相談したことはありますが、やはり、主人とのことをあまり、他人には言いたくありませんので、詳しく話したりはしません」

### 5. ライフスタイルのまとめ

治：「思い出の全体を通じてですが、『私は夫婦がなんでも隠さずに話し合っ、相談しながら喧嘩しないで楽しく生活出来る家庭を築きたい』と思っておられますか？」

本：「そうなんです。彼とならできると思って努力してきました」

治：「しかし、現実とは全く逆で、自分では思ってもいない事態になって失望している？」

本：「そのとおりです」

治：「こんな状況になったのは、私よりもご主人の方に責任がある？」

本：「私は努力しているのに、彼は無責任です。今のところ失敗です」

治：「しかも、まわりの近い人達は私を理解してくれない？」

本：「そうです。助けてくれる人がいません」

治：「いま魔法使いの人がいて、3つの願いを聞き届けてあげると言ったら何を願いますか？」

本：「1つは、はやく病気をなおしてほしい。2つは、主人がワンマンでなく、もっとやさしくしてほしい。包み隠さずなんでも話してほしい。家庭は夫婦2人で築きあげるものと考えなおしてほしい。子ども達の遊び相手になって、子どもの教育についても私まかせではなくもっと考えてほしい。3つは、自分達のマイホーム一戸建ての家を建ててほしい」

### 6. 治療目標について

治：「あなたは今のご主人との結婚は失敗と考えておられますが、このまま結婚を続けますか？それとも、なにかお考えでしょうか？」

本：「…（しばらく沈黙）…失敗と考えていますが、子ども達のことを考えると、父無しにしたくないし、離婚したいという気持ちもありますが…やはり離婚しない方がよいのかもしれない。昔のようにもうそんなに、若くないし、別れても、一人では生活出来ません。両親も助けにならないし、もちろん、妹もだめだし…子ども達はどんなことがあっても自分で育てたいし…どうしたらいいのでしょうか？」

治：「ご主人は、あなたが病気なので、今はなににも言えないと考えておられるようですね。しかし、離婚は考えておられないのではないですか？」

本：「主人はそうかもしれません。病気をはやく治して、もっと、自分自身が強くならなければと思うようになりました。」

治：「それでは、離婚のこと、ご主人の態度を変えるということはしばらくカッコに入れておいて、あなた自身がもっと強くなるにはどうしたらよいかについて努力されたらいかがでしょうか？」

本：「そうですね。とにかくはやく病気を治したいです」

治：「入院当初にくらべて、どうですか。最近は大いぶん気分もよくなり、薬を飲む量も少なくなりました。それに、あれほど、食事がとれなかったのに、食欲も出てきたし、かなりよくなっていませんか？」

本：「そうです。先生の言われるとおりで。ずいぶんとよくなりました」

治：「それで、一つの提案ですが、あなたのほうから、なにくわぬ態度でご主人に電話されて、子ども達とあなたに会いたいと言われたらいかがでしょうか？」

本：「本当は主人の方から連絡してほしいのですが」

治：「それはそうかもしれませんが、さきほど提案しましたように、ご主人の態度を変えることはカッコにしておいて、あなた自身が強くなるにはどうしたらよいかということを目指すると、あなたの方から電話されて要求されたら、あなたの方が主導権を握るといえるか、ようするに、あなたの方が強くなったということにならないでしょうか？」

本：「そうですね。ではこちらから電話してみます」

## 7. その後の経過

12月中旬、日曜日に主人と子どもが面会に来て、患者と外出する。ナースの報告によると、主人と子ども達と仲良く、笑顔で帰院したとのこと。

翌日の面談。

治：「どうでしたか？」

本：「久しぶりに子ども達に会えてうれしかった。主人とは距離感があったが、主人が落ち込んでいます。転職したいけどできない。学校で、問題をかかえています。結婚してはじめて、主人がこのようなことで私に相談してくれました。心を開いてくれたというか。少し希望が出てきました」

その後、外泊を2泊3日した。帰って、洗濯しただけで、主人がごはんと食事をつくってくれました。主人と相談した結果、退院しても主人が協力してくれるので、やっていけそうという。12

月下旬退院する。約2ヵ月半の入院であった。以後2週間に1回の間隔で外来通院する。

X + 1年1月～3月の間。当初主人は家事など手伝いしていたが、患者が元気になるにつれて、何もしなくなり、また、患者はパニック状態になり、近医に点滴をうけたりした。しばしば、電話してくる。「いろいろ不安な材料を探すのは出来るだけやめて、『夫のことはカッコに置いて（頼らずに、期待しないで）自分が強くなるにはどうしたらよいか』と考えを切り替えて生活するように」アドバイスする。そのうち次第に夫の帰りがおそくなっても不安にならなくなってきた。

X + 1年4月～6月の間。主人が希望していないところに転勤となり、主人がまた、やけ酒を外で飲んでおそく帰ってくる。パチンコにいったり、スナックに行ったりして、患者本人も落ち込む。うつ状態。しばしば主人とトラブルをおこし、しばしば電話してくる。2週間に1回の通院加療。「『主人が頼りにならない』ことがよくわかった。くやしい。頼れる人がいない」という。「ご主人に頼らず、子ども達を育てる責任を努めてください。『ガッツ。ガッツ』と声を出したり、心の中でとなえてください。必ずいつか自分は幸福になるのだと自分自身をはげましてください」とアドバイスする。

5月下旬になってやっと、引っ越しする。夫とは1週間口をきかず、家具の整理から、近所のあいさつまわり、家の中の整頓全部自分一人でやった。

6月。主人は何もしない。手伝いもしない。「ガッツ。ガッツ」ととなえながら、一人でなんでもやる練習をしていたら、体重も2 kg 増え元気になったという。

X + 1年9月。主人が自動車事故を起こし、200万円借金したらしい。今回は主人の方から、隠さずに話してくれた。＜自分のこづかいを減らして少しずつ支払う＞とのこと。（自分のことは自分で責任もってください）と主人に言ったという。

X + 1年10月。主人がやはり、連絡なしに、しばしば酔っ払って帰ってくるが、浮気はしていないようなので、好きなようにさせようと思った。それよりも子どもの育児や教育の方に力を入れることにしたという。

この頃、書いてもらったのが図4である。

#### 図4の説明

長男が運動会に出ています。左上部に私と娘と私の友達になった母親達2人がいて見えています。主人はカッコで囲んでるように、無視しています。

治：「ご主人は運動会に来ておられるのですか？」

本：「そうですが、来ていても私たちとは心はかよっていないということを表しています」

X + 2年2月。薬は睡眠剤だけで、時々しか飲んでいない。身体症状も最近は出ないという。だいぶ強くなってきた。



(図4)

X + 2年4月。このころ、また主人が口をきかず、毎日パチンコづくめ、帰りに酔っ払って帰ってくる。仕事で何かいやなことでもあったのかと聞いても答えない。私は次第に気分が悪くなり、むらむらしてくるが「ガッツ。ガッツ」と言いきかせてがまんしているという。ややうつ状態。

そこで治療者から「このような状態を長く放置してはよくない。本当は私のところにご主人も来ていただいてカウンセリングを受けていただくとよいが、ご主人の方が避けておられるようです。どうやら、私があなただけの味方して文句を言われるのではないかと避けておられるように思われます。どうでしょう。どなたか第三者の仲介で、ご主人と話しあわれてはいかがでしょう」と言うと主人の恩師が仲人なので相談してみるということになった。

X + 2年5月。仲人夫妻と4人で話し合いをしたという。

1. 主人はパチンコを辞める。
2. 家族でキャッチボールをして遊ぶ。
3. お互いに声かけ運動をする。たとえば、朝おきると「おはよう」と言い、主人が学校に行くときは「行ってらっしゃい」「ってきます」とか。

そうしたら、その後はきちんと生活できるようになった。それと、積極的に悪妻になろう。夫婦生活も私の方からしかけようと決心したと言う。

X + 2年6月。主人とうまくいっている。仲人に相談してよかったという。

顔の表情もよい。「夫婦生活もOKです。何かふっ切れた感じです。これまでの私はいわゆる、過保護で、自分のことばかり言っていることがわかった。以前は見えなかった自分が次第に見えるようになった」という。

ずいぶんと表情、態度も変わって主婦らしい感じに変わった。

そこで早期回想を聞いてみた。(これは図にしていない)

\*小学以前の幼少期の頃。妹と野原で、ダンボールでお家をつくったり、野原をかけずりまわり、遊んで楽しかった。

治：「現在の状況と何か関係ありますか？」

本：「主人と和解出来て、最近楽しい毎日です。楽しい雰囲気が似ている感じです」

\*小学1年頃。ちょっと、男の子にちょっかいだされて、泣いて家へ帰って母親に話して「学校に行きたくない」と言ったら、父親にすごくたたかれた。

治：「どんな感じ？」

本：「よわったなあという感じ」

治：「それは父親が女の子の気持ちをわかってくれないということですか？」

本：「うん。それもあつかましいかもしれないけど、父親は心配してくれたのだと思う」

治：「男の子にちょっかいだされたことはいやな体験ですか？」

本：「そのときはいやな体験と思ったけど今考えると少し恥ずかしいということかもしれない」

治：「最近の出来事と何か関係ありますか？」

本：「ええと…主人との関係で、仲人さんに注意されたことかもしれません」

X + 2年7月。久しぶりに主人と夫婦二人で来院。生理がおくれて2週間たったので産婦人科にいったら、妊娠しているといわれ、仕方なく、中絶したと言う。ショックを隠せない感じ。

治：「いろんな事情があるので仕方ないね。残念だけど」となぐさめる。

主人は照れくさそうな様子。「どうもお世話になります」と治療者に挨拶する。

治：「仲良くなられてよかったですね」と勇気づけをおこなった。

この時患者さんに「ご主人と結婚するまえ、おつきあいしている時の思い出の事を書いてくれませんか」と頼んだら、3枚かいてくれた。

- 1) 二人が手を組んで歩いているもの。
- 2) 主人と映画をみているもの。
- 3) ベッドインしているもの。

これは相当、濃厚な描画図なので、プライバシー保護のためもあり、公表するのを割愛した。

X + 2年10月。元気に来院。しっかりした表情。

\*主人の借金200万円を返しました。

\*生活に目標がなくなるとダメなので、家を建てることにしました。

\*子ども等病気しても、主人をあてにしないでやれるようになりました。

\*とにかく、先生が前に言われたようにガッツの精神で、気合入れて生活しています。

\*ものごとをプラス思考をもって、気持ちを強く持って生活するようになったら、身体の調子よくなりました。PTAの役員も出来るようになりました。

\*主人も協力してくれて、アルバイトしてお金をためると言ってくれています。

\*この頃主人はいろんなことを言ってくれて、夫婦の間に隠し事はなくなりました。

治：「もうすっかり、元気になられたようです。いつも夫婦が仲良く暮らすにはどうしたらよいかということをご主人と二人で相談しながら幸せな生活を送ってくださいね。それから、時々、結婚するまえのおつきあいしているときのお二人に気持ちを切り替えて、子ども達は誰かに頼んでお二人だけでデートしてください。

そうすると、夫婦関係がリフレッシュされ仲良い関係がつかれます。それでは何かありましたら相談にきてください」と治療終了をおこなった。これ以後来院していない。このとき書いてもらったのが図5である。

#### 図5の説明

長男が野球の試合に出て、家族や子どもの親達と応援しています。右上部の黒の大きいのが主人で、真ん中が娘その左が私です。皆で、大声をあげて応援しています。

これは本患者が主人を受け入れ、和解して、健全な家庭を形成していることがわかる内容の図である。



(図5)

## 8. 考察

本症例に、描画図を描いてもらおうとしたきっかけは、入院中時間があり、描画図を描いてもらったら、患者さんの心理状況やライフスタイルなど一見して分かりやすく、描画図を患者さんに説明してもらうことが出来るし、治療者のライフスタイル等の解釈にしても、治療者の影響が入りにくい。治療状況も理解しやすいのではないかという思いつきである。

図1から図5までは、

- (1) 患者さんが夫に対して拒否的な時期（図1から図3まで）（X年10月の入院時からX+1年9月頃まで）
- (2) 夫に対して拒否的ではあるが、自分がしっかりしなければと決断しはじめた時期（図4）（X+1年10月頃）
- (3) 夫を受け入れ和解し、主婦として生きようと決断して、症状も消失して治療終了した時期（図5）（X+2年10月頃）

この症例は、多くの夫婦が経験しやすい物語とも言えよう。たまたま、この患者さんは感情表現や言動を明確にするタイプなので、病状を呈し、カウンセリングの対象になったにすぎない。また、本来なら、夫婦カウンセリングの絶対必要な例であるが、治療者の未熟から、妻だけのカウンセリングになった。妻である患者が「かわいそうな私、だめなあなた」<sup>(2)</sup>を演じ続けていたら恐らく、病状はいつまでも続いていたにちがいない。まだ若い夫婦だから訂正しやすかったかもしれない。妻が更年期頃になると、夫の方も頑固になっており、「かわいそうな私、だめなあなた」という悪循環サイクルからなかなか抜け出すことがむずかしく、病状が続くことが多い例を数多く経験している。

本患者の症状は夫にむけられたメッセージである。しかし、夫が非協力的で夫婦カウンセリングが出来ない。出来なくても、患者である妻の考えや態度が変化すると、夫も変化するにちがいない。時期を待って、患者さんと丁寧に接し、そのような機会がきた時、なんらかの方法をとればよい。

初診時夫とも面談しているので、この夫婦は離婚はしないであろうと治療者は当初より推測していた。そうであれば、和解する機会は必ずくる。このように確信していた。退院時一時的に和解しかけたようにみうけられた。しかし、退院後に以前と同じような状況にもどった。

従って、当初の治療目標は、妻の思い込みに治療介入し、「かわいそうな私」のところを変更する作業が必要であった。ライフスタイル診断から、「私は自分の描く理想の家庭を築きたい。にもかかわらず、夫は協力してくれない。周囲の人も私に協力してくれない」つまり、自分の理想像から現実を引き算して、勇気くじきを自分から選び、症状を出して自分を傷つけることを決断している状況であることが判明した。

治療者は症状に対して、適当な薬物を使用して、対症療法的に対応しつつ、治療目標を「夫を変えることをあきらめ、自分自身を強めるにはどうしたらよいか」ということで一致をみるよう提案して、これが受け入れられたので、その方向でカウンセリングをはじめた。しかし、この方法だとかなり患者本人に負担がかかる。どこかで、夫婦和解の試みをしなければならないと考えていた。

X+2年4月（初診時より約1年10ヵ月）、患者本人もかなり母親の自覚がでてきたが、夫があいかわらず変化しない状況で、このままだと離婚の方向にいく可能性が出てきた。ここで、なんらかの治療介入の方法を考えださなければならない必要にせまられた。そこで、夫婦カウンセ

リングは治療者はできないので、患者と話し合っているうちに、仲人が浮かびあがってきた。この仲介がうまくいった。この時から、状態は劇的に変化した。

仲人にお会いしたことはなかったが、夫の恩師というので、うまくいくのではないかと推測した。予想どおりうまくいった。もし第三者の仲介者がみつからなかったら、もうすこし、こじれたかもしれない。ラッキーであった。

しかし、これが成功したのは、患者が夫と和解したいと考えていたからであり、夫もそのように考えていたからである。

仲人の仲介で和解が成功したあとのX + 2年6月、患者本人は重要な自己洞察を治療者に述べている。すなわち、「夫婦生活もOKです。何かふっ切れた感じです。これまでの私はいわゆる、過保護で自分のことばかり言っていることがわかった。以前は見えなかった自分が次第に見えるようになった」と。この時の早期回想が「夫と仲良く暮しており、夫婦生活もうまくいっている」という内容であったし、X + 2年7月には夫と同伴で、来院し、妊娠したことを告げた。そしてこの時に治療者が勧めた、結婚前の主人とのつきあいの描画図はラブラブの仲良いものであった。この時期ですでに治療終結をしてもよかったのであるが、中絶したので、その影響の経過を診る必要があったし、若干の不眠も残っていたので様子を観察していた。

そして、治療終結時の家族図は、患者が主人を受け入れ、協力して家庭生活をおくっている内容のものであった。建設的な考え方をされていて、今後人生のいろんなタスクに対しても、乗り越えていくであろうと推測されるものであった。

なお追記すると、患者のカンジダ症は患者が主人を拒否していた時に発病し、仲がよくなると治癒したということである。あたりまえのことではあるが付記しておく。

## 9. まとめ

- (1) 33歳の主婦で、躁うつ状態で、多くの精神的、身体的訴えの多い患者に、描画図を参考にしながら、カウンセリングをおこなった症例を報告した。
- (2) 症状の相手役は主人であるので、夫婦カウンセリングをおこなうことを治療者は提案したが、主人が非協力的で、不可能だったので、患者のみのカウンセリングを行った。この患者は「かわいそうな私、ダメなあなた」を選んでおり、ライフスタイル診断を参考にして治療目標を「主人に頼らず、強く主婦として生きるにはどうしたらよいか」ということで一致した。そのための助言をおこない、「かわいそうな私」の変更にし少し成功したが、あいかわらず、主人が変わらず、離婚の危機も生じたので、第三者で主人の恩師である仲人に仲介をもとめるよう助言し、これが大きな転機となって治療は成功し、夫婦和解が成立し、症状も消失した。この出来事で、患者は自己洞察をおこし、ライフスタイルも変化し、健全な家庭生活を勝ちとった。
- (3) カウンセリングをおこなう手助けの一つとして描画図が参考になったことを示した。

## 参考文献

- (1) 中島弘徳ら：早期回想を題材にしたグループ絵画療法の実際、「アドレリアン」16(1):1-6、2002.
- (2) 野田俊作：続アドラー心理学トーキングセミナー、:20、1993. 星雲社

## 更新履歴

2012年12月1日 アドレリアン掲載号より転載